

未来へ繋げる小さな一歩

映画事業担当者

4月19日に映画「殞の森」の上映とカンヌ国際映画祭でグランプリを受賞された河瀬直美監督を迎えてのトークショーが開催されました。その中で、新たな試みとして、映画には字幕、トークショーには手話通訳と要約筆記を行いました。

実はこの試み、舞台の裏で、多くの見えない力が支えていたのです。それは、聴覚障害を持つ方からの一通のファックスから始まりました。それは、「今回の映画とトークショーに行きたいのですが・・・」という内容のものでした。通常、多くの日本映画には字幕は付いていません。新に字幕をつけるには、技術的な問題と映画を撮った監督の理解が必要不可欠です。そのため、まず河瀬監督の事務所はこのことを相談しました。河瀬監督は、このような取り組みに理解が深く、快く快諾して頂きました。次に手話通訳者を探すのに、一人二人と相談するうちに

手話通訳・要約筆記者を含めずぐに、そうゆうことならと協力をして頂ける方が見つかりました。今回、最大の難関が、スクリーンに字幕をつける作業でした。照度の問題、字幕の位置、字幕を出すタイミングその全てをクリアしなければ映画に字幕をつける事ができません。舞台スタッフと要約筆記記者で試行錯誤を繰り返して、長い時間をかけてようやく完成したのがあの映画字幕だったのです。耳の不自由な方にとつては、決して完璧なものではなかったかもしれませんが、多くの人の協力なしでは実現することさえできなかったと思っています。今回の試みは小さな一歩かもしれませんが、未来へ繋がる大きな一歩になることを願います。同時に一人でも多くの方に楽しんで頂ける環境を作っていくことが、私たちの仕事であり使命であると改めて感じました。



「殞の森」上映&

河瀬直美監督

スペシャルトーク

(映画ボランティア)

インタビュ

Q1 映画ファンとして何度観ても感動する一番好きな映画は何ですか？

A 映画ファンじゃないので、わかりません。イタリヤの「自転車泥棒」(ピットリオ・デシーカ監督)

Q2 監督がもし女優で映画に出演したらどんな役をしてみたいですか？

A 出演しているので今度観てください。「沙羅双樹」2002 女と姉役。

Q3 仕事を通じて感動したことはなんですか？

A スタッフと気持ちをわかちあえた時。観てくれた人が感動してくれた時。

映画観しようしてくれた観客が評価してくれた時。

Q4 レッドカーペットを歩いた時の

印象は？

A レッドカーペットは過去何度も歩いているので、それそのものに対する印象は

ありません。けれど、今日は(2007) 上映なるアラン・ドロンス

んの3メートル後を歩いていて、別世界のように感じた。レッドカーペットを降りた時に皆がブラボーといってくれたのが、感動的でした。

Q5 次の作品はどんなものを考えたいですか？

A 「七夜侍」秋公開。

Q6 田舎に住んでいて良い点、悪い点はなんでしょうか？

A ① 自分自身を見つめることができる。見失わない。空気がいい。自然がすぐ近くにある。人がやさしい。つながりが深い。考えられる時間がゆっくり流れていること。悪いことはありません。

Q7 今回益田(島根)の印象は？

A 海の音。 そぼく。海の広がり。創造力(想像力)をかきたててくれる。

Q8 将来の夢は何ですか？

A 長寿。千年先に残っている映画をつくる。読まれ続ける小説作品を書くこと。



ボランティア会員研修会

2月24日(日)広島県三次市「奥田元宋・小由女美術館」へボランティア会員31名で研修に行きました。当日は、雪の降る寒い日でしたが、楽しく有意義な研修会となりました。(写真はの様子です。)



グラントワも

「益田まつり」で 賑やかでした

4月2日の益田まつりで、グラントワは大変賑やかでした。

早朝から「益田おどり」の衣装つけた、真砂、鎌手など各地区のメンバーが集まりました。その衣装は鮮やかで見事でした。中庭では踊りの披露があり、街頭へ出てゆきました。可愛らしい「小学生の鼓笛隊」もありました。学習センターまで演奏しながらの行進でした。

グラントワの中では盆栽展、華道展、茶会などで賑わいました。五月の連休、お盆、秋祭りなど沢山催しがあります。グラントワに行くの楽しいこともり沢山ですよ。



グラントワ周辺の 自治会も応援団

4月20日 稲積自治会では、グラントワ 前面の道路、歩道の美化活動を実施しました。朝7時より、今月担当の隣保の人達がごみ拾い、特に歩道タイルの目地の草抜きを入念に行い

ました。

この自治会は昨年より「道路美化事業ボランティア活動」(県へ登録)として、年6回担当を決め実施しています。

周辺の自治会は勿論グラントワの大応援団です。



美術館トークグループ

「木版画の世界」に

「案内します」

コレクション展はA室「島根の室町文化展」、B室「木版画の世界」、C室「不思議を切り取る」を開催しています。トークボランティアは現在数名の少人数ですが、講習を受けてB室とC室のご案内をいたします。(土日祭を担当)

木版画は郷土出身の木版画家 平塚運一、水津保美さんの黒白版画と多色摺り作品です。(7月まで続きます)富士山、大山、松江城などあざやかな作品です。きつと楽しんでいただけます。

津和野出身の水津保美画家「本人もおいでになります。C室には、不思議な画、だまし画などあり、おもしろいです。ボランティアと一緒に 楽しみましょ

う。気軽に声をかけて下さい。

(写真は 水津画家と講習の様子です。)



発送グループ訪問

毎月 発送作業の日は「おはようございます。」と元気よく声をかけ合いながら、講義室にメンバーが集まります。

イベントの広告・宣伝用ポスター、チラシなど書類を発送する重要な作業を担っているのが、このグループです。

友の会へ約二千五百通、パスポート会員へ約三千通、施設関連へ

約三千通が対象です。

作業は「封筒に宛名シールを貼る。」「ポスター、チラシなど指定数を揃える。」「封筒に入れて封をする。」「比較的軽作業です。作業日は 毎月事務局から通知があります。(月 3〜4日です。)

自分の都合の良い日や時間にお手伝いが可能です。1日20名いればスムーズに作業が運べます。

現在 少々不足気味です。参加をお願いします。

参加者の声。

「何より最新情報が入手できうれしい。」「軽作業で誰にでもできるね。」「家に居るより 健康に良いね。」「みんなと話ができて、顔見知りが増えるのは良いね。」などです。

藤井リーダーから一言。

「気軽に参加してください。僅かな時間でもお手伝い頂ければ幸いです。お待ちしております。」「グラントワの赤星さんより。」

「発送作業に協力いただき感謝しています。今後もよろしくお願ひします。」と頂きました。

(飯塚哲也)



生け花グループ訪問

グラントワの玄関、回廊、洗面所、事務所など約三十箇所にもいつも綺麗な生花が飾られ、来館者の好評をえています。このグループの努力の賜物です。

この活動は、ボランテアの方々の発案により、開館以来続いています。

生け花に使う花瓶は ボランテアの方々から提供されたもので、毎週の花の材料はメンバーの持ち寄りとボランテアの方々の提供品です。

毎週 金曜日 夜7時に ボランテア室には 花を抱えて メンバー(女性)が集まり 生け花が始まります。これといった流派はなくみんなです。話し合って 生けるそうです。

(投げ入れ流ですかね? いや失礼しました。)

花の少ない冬の季節は 用意するのに ご苦労している様子です。

「花が飾られ、心 和みますね」と声をかけられるのが 何よりの励ましになるようです。

みんな真剣に忙しく 活動していま



した。「その気」でやらないとなかなか続かない 活動だと感じました。

寺井 美江リーダーのひとこと「協力してくれるメンバーの方々、花を提供いただいているボランテアの方々のお陰で美しい生け花が出来上がります。感謝です。」

ぜひ、お花の好きの方は ボランテアしませんか、お待ちしております。

(飯塚 哲也)

「遊佐未森コンサート」

3月29日

“ スキート樽もん” ミモリ館、「昭和歌謡の夕べ」のお客様に「おっかけ」がいて、モダンな着物を着ていました。昭和初期の着物にブーツとか、木柙のカバンをお持ちの方など、さまざまなシャレたカッコウでした。聞けば、宮城、群馬、東京などから来られたそうです。(フロント)



左上、ワークショップグループの衣装作品。
右、 オープニングのテープカット風景。

ワークショップ

グループの衣装作品

国立能楽堂コレクション展が四月十九日(土) から始まりました。素晴らしい能・狂言の衣装や面の品々です。

ボランテアワークショップグループでは、このコレクション展にちなみ、ミニ衣装を作り、大ホール、小ホールのそれぞれの入り口の近くに飾りました。

あ と が き

今年度は、ボランテア組織も新しくなり、グループが活動しやすくなりました。

情報ボランテア担当も今回は、取材やインタビューなどそれぞれのグループと連携して、親しみやすく、楽しく、気品のある紙面構成にと努めました。また、グラントワでの体験・感想など皆さんの投稿をお待ちしています。

(情報発信ボランテア)